

調査等事項報告（団体名：市政・公明クラブ）

視察先	千葉県鋸南町 道の駅「保田小学校」
視察日時	平成30年10月22日（月）午前9時40分～11時まで
視察項目	廃校を利用した事業における成果や課題
視察者	大山 正弘・海老名幸司・茨木 久弥・森 一弘・秋葉 新一・石澤 祐一・矢萩 浩次
内容	<p>1 視察地選定</p> <p>鋸南町では、廃校を活用し、様々な事業を展開している。交流拠点としての成果や課題を知るため、廃校を利用した道の駅として有名な「保田小学校」を視察地として選定した。</p> <p>説明者 （株）共立メンテナンス 道の駅保田小学校 校長（駅長）兼務 大塚克也氏</p> <p>2 鋸南町の概況</p> <p>鋸南町は、南房総の玄関口に位置し、周囲を海と山に囲まれ、温暖な海洋性気候と東京に近い地理的好条件に恵まれ、日本三大水仙生産地や、出荷全国一の食用ナバナが3月から5月にかけて絨毯を敷いたように咲き、四季折々の彩で親しまれてきた景勝の地。北部に名刹日本寺や像高31mの大仏を有する鋸山（のこぎりやま）がそびえ、町名はこの鋸山の南に位置することに由来する。</p> <p>消費地である首都圏に近いという地の利を生かし、水産加工による特産品づくり、遊漁船等の受け入れ環境の整備や定置網体験の推奨など、拓かれた漁業環境の展開を図っているほか、稲作や畑作、酪農と様々な農業に取り組んできた一方で農業従事者の高齢化（高齢化率41%）、後継者不足なども進んでいるが、農業に希望を託し、積極的に取り組む若い後継者も花卉栽培や、酪農を中心に育ち始めている。人口は8,233人（H29.1.1現在）</p> <p>3 都市交流施設「保田小学校」の運営について</p> <p>①プロジェクト始動までの経緯</p> <p>鋸南町の子どもは、平成14年の出生者数において56人。平成26年は29人へと減少。そのため、小学校は3校から1校へ統廃合した。（保田小学校も平成26年3月廃校。将来の人口予測で、2060年には2700人～3600人の可能性がある。</p> <p>このまま何もしなければ、地域活力の減退を招く恐れがあり、また、いろいろなアイデアで、減少を食い止めなければいけないという意見があり、都市交流施設・道の駅「保田小学校」プロジェクトが始動した。</p>

②計画策定・検討の経緯

平成 22 年、総合計画を作成する際に集まった、住民代表のアイデアがきっかけとなっている。

地理的な優位性、魅力的な既存資源、増加している南房総への観光客等。現状を再確認し、計画を策定した。

交付金・補助金は、農村漁村活性化プロジェクト支援交付金（農林水産省：平成 26 年～28 年）を活用し、事業実施にあたっては、時間、金、人（知恵）が必要であった。

自治体単独では無理があることから、基本調査から民間手法を取り入れ、ニーズ志向・ハードソフト両輪で検討を行った。

設計者は「N. A. S. A 設計共同体」（5 大学連携、4 事業所）を選定した。提案内容は、体育館を大きな市場にし、周辺環境との調和、初期投資の節約、後者を再利用した。その 5 大学連携には、早稲田・法政・工学院・日本女子・横浜国立の学生が参加している。

コミュニティの核であった施設が、都市交流施設として地域経済を支える拠点に生まれ変わるモデルケースとなるよう、敷地建物を外溝や体育館を含め一体的に整備する計画で、学校の姿にあまり手を加えず、面影を残す設計にしている。

③施設の整備費用

施設整備費は、平成 27 年 11 月末現在、12 億 1,445 万 6,803 円で、その主な財源は、国庫補助あわせて約 3 億 4 千万円、千葉県補助約 5 千万円、町債（過疎対策事業費）約 5 億 3 千万円、町一般財源約 2 億 8 千万円である。

④施設概要

- ・直売所 旧体育館を大空間の市場とした「きょなん楽市」
- ・テナント 校舎 1 階に多くの地元テナントが地産地消に取り組む場として、里山食堂・中華・カフェ・イタリアンなどが入っている。
- ・宿泊施設 校舎 2 階に旧教室を利用した宿泊施設「学びの宿」。小室(4 人部屋) ×10 室。大部屋(15 名程度) ×2 室。
- ・まちの縁側 校舎 2 階南側に町民や交流客が自由にくつろげる「たまりば」となるロングリビングスペース（避難所としても活用）
- ・情報コーナー 1 階に鋸南町の観光情報や交通・天気等の生活情報を案内・提供する「まちのコンシェルジュ」
- ・その他 入浴施設「里の小湯」親子で楽しめる遊び場「こどもひろば」、音楽・ダンス等の練習やサークル活動の場として使える「音楽室」、「イベント広場」など。

平成 27 年、地域活性化の拠点を形成する重点「道の駅」として選定される。（本来、道の駅の設置・認定は駅同士に 4km 以上の間隔があることが条件だが、宿泊施設があるため、差別化され、千葉県で 26 番目に認定。）

4 研修の感想

今回の研修では、町のトップである町長の熱い思いが事業推進を可能にし、実施出来ているものと感じてきたところです。

	<p>また、施設の管理委託をする際は、箱物が出来てから委託するのではなく、計画段階から入れるべきものと改めて痛感したところです。</p> <p>今後、少しでも村山市に活かすための研修として、大変有意義なものでした。</p>
--	---